

城南衛生管理組合における環境啓発活動の今後の方向性
～リサイクル工房機能のあり方検討に関する報告書～

令和 3 年 3 月

城南衛生管理組合

目 次

はじめに	1
1 現状と課題	2
(1) 現状（基本情報）	2
ア リサイクル工房規模	2
イ 現工房の利用者（参加者）	3
ウ 現工房の稼働状況	3
エ 施設見学	4
オ 各工房ボランティアスタッフ数	5
カ 広報・広聴活動	5
(2) 課題と分析	7
ア リサイクル工房	7
イ 施設見学	7
ウ リサイクル工房の運営	8
エ 広報・広聴活動	9
2 検討の背景	10
3 今後の取組目標	11
4 対策案（目標達成のための取組）	12
(1) 施設見学の充実	12
(2) 体験学習の充実	13
(3) リユースコーナーの充実	13
(4) 広報・広聴活動の強化	13
5 環境学習施設の運営体制	14
6 環境学習施設の整備方針	15
おわりに	16
資料1 現工房の内容、個別的な課題と分析及び対策案	17
資料2 リサイクル工房検討会議名簿	21
資料3 リサイクル工房検討会議協議内容	22

はじめに

エコ・ポート長谷山のリサイクル工房（ガラス・衣服・自転車の各工房）は、組合の基本方針の一つである「更なる循環型社会の構築」を目的として建設した資源化施設（容器包装廃棄物のうち、缶類、びん類、紙パック、ペットボトルの資源化を行う施設）に併設する形で、廃棄物の有効利用とごみの減量を図る「3R（リデュース、リユース、リサイクル）推進のPR施設」として平成11年2月に開設し、これまで各種リサイクル教室の開催や施設見学等の受入れを行い、管内住民のリサイクル体験学習の場として運営してきたところです。

開設後、約21年が経過し、3Rのうちリサイクルについては、各種のリサイクル法が整備され、消費者（分別排出）、各自治体（分別収集）及び事業者（再商品化）の努力により、社会的にも定着をしつつありますが、循環型社会を実現させるためには、そもそも廃棄物を発生させない2R（リデュース、リユース）を重点とした取組が必要となっています。

さらに、温室効果ガスを今世紀中に実質ゼロにするという「パリ協定」の発効、海洋プラスチックごみ問題など、組合が担う廃棄物処理とも密接に関係する様々な環境問題についても考えていかなければなりません。

組合は、こうした動向に目を向け、住民とともに環境に対する意識を高め、一人ひとりの行動を変えていく必要があります。

組合では、現在、本庁建替移転を計画しており、その計画の中で、エコ・ポート長谷山のリサイクル工房機能を折居エリアに移転（新庁舎内に併設）させることとしています。

このような状況から、エコ・ポート長谷山のリサイクル工房機能の現在の運営状況や課題を明らかにし、組合における環境啓発活動の今後のあるべき方向性について検討を行いました。

1 現状と課題

(1) 現状 (基本情報)

ア リサイクル工房規模

	室名	面積 (m ²)	備考 (利用定員)
1階	衣服譲渡スペース	114.05	自転車工房の一部に衣服等を保管
	衣服工房	48.75	工房の定員は10名程度
	休憩室 (倉庫)	48.75	衣服等の保管ほか、試着室としても使用
	自転車工房	94.25	回収した自転車は、屋外プレハブ倉庫に保管
2階	ホール	101.25	小学生の見学時は、ホール床に座りビデオ視聴や説明を行っている。最大定員120名
	ガラス工房	48.75	工房の定員は10名程度
	会議室	52.50	ガラス工房の参加者が多い時は、ガラス工房に加え、会議室を使用することで体験利用の最大定員は50名程度
合計面積		508.30	

○ 1階



衣服譲渡スペース



衣服工房



自転車工房

○ 2階



ホール



ガラス工房



会議室

イ 現工房の利用者（参加者）

項 目		利用者（参加者）数（人）			
		H29	H30	R1	
通常 工房	ガラス工房		139	144	177
	衣服工房		129	227	157
	自転車工房	組立	43	43	33
		修理	15	12	12
教室	ガラス教室		242	258	207
	衣服教室		188	218	179
	着物リフォーム教室		348	341	421
出前 講座	ゆめりあうじ他	ガラス教室	32	33	38
		衣服教室	58	57	67
	小学校・構成市町・自治会等	ガラス教室	670	784	704
		衣服教室	244	314	415
		リサイクル教室	37	57	51
衣服譲渡（購入者数）		1,226	1,267	1,103	
団体体験		241	199	227	
総利用者数		3,612	3,954	3,791	

ウ 現工房の稼働状況

	月	火	水	木	金	土	日	稼働日数		
			休館日	休館日				H29	H30	R1
ガラス工房 (教室)	—	—	—	—	月1回	毎週	毎週	163	170	172
衣服工房 (教室)	月2回 程度	月2回 程度	—	—	月1回	毎週	毎週	168	174	163
自転車工房	—	—	—	—	—	毎週	毎週	135	133	129
衣服譲渡	毎週	毎週	—	—	毎週	毎週	毎週	254	257	258

※祝日（水・木曜日を除く）は各工房・衣服譲渡を開催している。

※各工房を開催していない時に教室の準備作業、スタッフ会議等を行っている。

エ 施設見学

① 管内小学校の施設見学

・見学受入れ状況

	H29	H30	R 1
参加学校数	44校/47校中	44校/47校中	43校/47校中
参加クラス数	106クラス	104クラス	103クラス
参加児童数	3,348人	3,222人	3,155人
ガラス工房同時体験	4校	4校	4校

※見学ルート：エコ・ポート長谷山～クリーン21長谷山

○見学スケジュール：(所要時間約2時間30分)

エコ・ポート長谷山入場(約10分) → DVD上映(15分) → 施設案内(約35分)
 → トイレ休憩(約10分) → クリーン21長谷山煙突説明・徒歩移動・入場(約15分)
 → DVD上映(15分) → 施設案内(約25分) → 質疑応答・トイレ休憩(約15分)
 → 退場(約10分)

ガラス工房体験実施の場合(希望する学校のみ) 1時間半～2時間追加

・見学案内者数

	H29	H30	R 1
施設見学ガイドスタッフ数	8人	6人	5人
施設見学ガイド対応クラス数	96クラス	63クラス	62クラス
エコポ職員見学対応クラス数	10クラス	32クラス	39クラス
C21職員見学対応クラス数	—	9クラス	2クラス

※小学校の見学案内については、ボランティアスタッフ「ECOフレンズ」の施設見学ガイドが主に案内説明しており、令和2年度で活動12年目となる。

※直近3カ年においては、施設見学ガイドスタッフが減少しており、職員が見学対応を一部担っている。

② 一般の施設見学

(単位:人)

	学校関係		行政関係		住民団体		その他		合計	
	H30	R 1	H30	R 1	H30	R 1	H30	R 1	H30	R 1
ごみ中継場				22						22
クリーンピア沢				5			3		3	5
クリーンパーク折居	11	14	64	156	20		361	98	456	268
クリーン 21 長谷山				16			32	58	32	74
リサイクルセンター長谷山	18	98	1	64		16	13	45	32	223
グリーンヒル三郷山			1	39				18	1	57
エコ・ポート長谷山	11	32	1	48			74	11	86	91
計	40	144	67	350	20	16	483	230	610	740

※平成 30 年 12 月のホームページリニューアル公開時、住民の方々の利便性向上と施設見学を増やすことを目的にホームページ上に施設見学案内の掲載を開始。

※平成 30 年度、令和元年度は、平成 30 年 4 月から折居清掃工場の更新施設「クリーンパーク折居」が稼働開始したことに伴い、行政視察の一時的な増加が見られた。

※その他には、企業・団体、構成市町主催のイベント等による見学が含まれる。

オ 各工房ボランティアスタッフ数

(単位:人)

	H29	H30	R 1	R 2
ガラス工房	7	8 (1)	10 (2)	10
衣服工房	14 (3)	13	10	11 (1)
自転車工房	3 (1)	3	3	4 (1)
施設見学ガイド	8	6	5	8 (4)
計	32 (4)	30 (1)	28 (2)	33 (6)

※()内の数字は新規加入者の数で内数

※各年度 3 月末現在 (令和 2 年度のみ 1 月末現在)

カ 広報・広聴活動

これまで、組合では「ごみ処理」という住民生活の基盤を支える業務を通して住民の理解、協働を深めていくことが大切であるとの観点から、以下のとおり、広報紙「エコネット城南」の発行、ホームページ、フェイスブックによる情報発信のほか、環境まつりなど、住民との交流を深めるイベントを開催し、広報・環境啓発活動に取り組んでいます。

広報・広聴活動の概要

事業項目	内 容
<p>広報紙「エコネット城南」の発行</p>	<p>隔月（奇数月）を基本に年7回発行。夏休みには管内小学校4年生から6年生対象に子ども特集号として発行。</p> <p>発行部数：104,900部（令和3年1月号）</p>
<p>声の「エコネット城南」</p>	<p>広報紙発行日の翌日の午後4時から30分間、FMうじにて環境情報を発信。</p>
<p>ホームページ、フェイスブックによる情報発信</p>	<p>ホームページの他、リサイクル工房等の募集案内やごみ分別に関する最新情報等を随時発信。</p>
<p>環境まつり</p>	<p>施設見学ツアーやリサイクル工房体験を中心に、構成市町と組合が実施する事業の周知を図ることを目的に開催。住民と直接触れ合い環境啓発に取り組む活動として実施。</p>
<p>大学との連携</p>	<p>京都文教大学との授業連携等を通じて、学生とともに効果的な環境啓発手法等について検討。</p>
<p>組合キャラクターの活用</p>	<p>「エコちゃん」、「エネキン」を環境啓発活動の伝道師として積極的に活用。</p>

(2) 課題と分析

ア リサイクル工房

課 題
○ 工房・教室の利用者数は横ばいの状況となっている。
分 析
● 立地条件、交通の便が悪く、住民の方が訪れやすい環境でない。
● 立地条件、交通の便を解消した出前講座については、年々利用者数が伸びていることから引き続き出前講座の開催が求められる。
● 工房・教室の利用者数を増やすためには、地域イベントや周辺施設との連携を図ることが効果的である。
● ホームページやSNSで工房教室の案内を情報発信しているが、閲覧者数は低迷している。
● 主に3R啓発は、本庁の広報担当が担っており、工房・教室等の魅力を十分に発信できていない。
● ものづくり教室的な内容になっているため利用者が固定化されつつあり、多くの住民の方への啓発にはつながっていない。管内住民のニーズに即した内容にすることが求められる。

課 題
○ 衣服譲渡の利用者数が減少している。
分 析
● 回収される衣服には、サイズの偏りがあるなど多くの在庫を抱えている。
● 古着を扱う市場が拡大し、衣服譲渡の利用者数が減少している。特化したものを取り扱うなど特徴のある取組が求められる。

イ 施設見学

① 小学校の施設見学

課 題
○ 管内47校中毎年未実施の学校がある。
分 析
● 管内の全小学校に対しては、毎年、施設見学の案内を送付している。
● 未実施の学校に対する環境学習の補完的な取組が求められる。

課 題
○ 半日単位の限られた時間での施設見学となっている。
分 析
<ul style="list-style-type: none"> ● 既に詰込み学習の傾向にあり、十分な内容を伝えきれていない。 ● 多くの小学校が半日で計画している。全日の施設見学を学校に提案することや効率的な施設見学のあり方を検討する必要がある。 ● 周辺の施設の活用も含めた環境全般にわたる教育内容等のプランを提案するなかで余裕の持てる施設見学の実施に向けて検討する必要がある。

② 一般の施設見学

課 題
○ 行政視察を除く一般の施設見学は減少傾向にある。
分 析
<ul style="list-style-type: none"> ● 管内住民の方が訪れた一般の施設見学者数は、見学者総数のうち数%に留まっており、管内の3R啓発につながっていない。 ● この間、ホームページで一般の施設見学の案内を積極的に行ってきたが、その効果はまだ出ていない。 ● 環境まつりで行っている施設見学ツアーでは、多くの方が参加している。他のイベントと併せて実施する方が効果的である。 ● 土日開庁やこれまでの一方的な施設見学でなく、楽しく学べる工夫が必要である。

ウ リサイクル工房の運営

課 題
○ ECOフレンズのボランティアスタッフの新規加入者が少ない。
分 析
<ul style="list-style-type: none"> ● ECOフレンズのボランティアスタッフが高齢化している。今後の運営が難しくなる。 ● ホームページ等で新規ボランティアスタッフの募集を行っているが、新規加入者の獲得には至っていない。 ● エコ・ポート長谷山が山間部にあるため、遠いというイメージと交通の便の悪さが、新規加入者の獲得を妨げている。 ● 柔軟にボランティア活動ができる体制づくりについても検討する必要がある。 ● ボランティアスタッフの方のやりがいなどを積極的に広報し、ECOフレンズに興味を持ってもらう必要がある。

エ 広報・広聴活動

課 題
○ 広聴活動については、より住民との交流や意見の聴取、反映が求められる。
分 析
● 環境まつり、エコネット城南を通じてアンケート調査を行っているものの、組合施策に十分に反映されていない。
● 出前講座やイベントの出展担当部署は、エコ・ポート長谷山の工房・教室が中心であり、住民との交流の場を活かした意見の聴取、組合事業のPR活動ができていない。
● 施設見学の積極的周知ができておらず、また、住民の意見を聴く場として十分な活用ができていない。

2 検討の背景

(1) 新庁舎建設基本計画に定める具体的機能

令和2年3月に策定した「新庁舎建設基本計画」には、基本理念、基本方針、広報・工房機能の整備方針を次のとおり定めています。

基本理念：安心安全な工場運営の遂行とともに更なる循環社会の構築を目指す

基本方針：地域に開かれ、住民参加・住民交流を促進する施設

整備方針（広報・工房機能）：

工房事業を通じて、構成市町との更なる連携を深めるとともに、広報・啓発をより積極的に進めるために、工房利便機能の充実を図ります。

(具体例) 住民交流・情報提供の場、多目的スペース・工房の充実、リピーターを増やすためのリユースショップの運営の工夫

(2) 環境啓発を取り巻く状況

エコ・ポート長谷山のリサイクル工房を開設した平成11年2月以降、平成15年に「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」の制定、平成23年の同改正法である「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」^{※1}では、持続可能な社会の構築のための環境教育・学習のテーマに「循環型社会の形成」が追加されることとなりました。

さらに、平成28年に策定されたESD^{※2}国内実行計画は、ごみ焼却施設やリサイクルプラザをESDのための学びの場として位置づけ、持続可能な社会の実現とその担い手づくりを進める姿勢を打ち出しています。

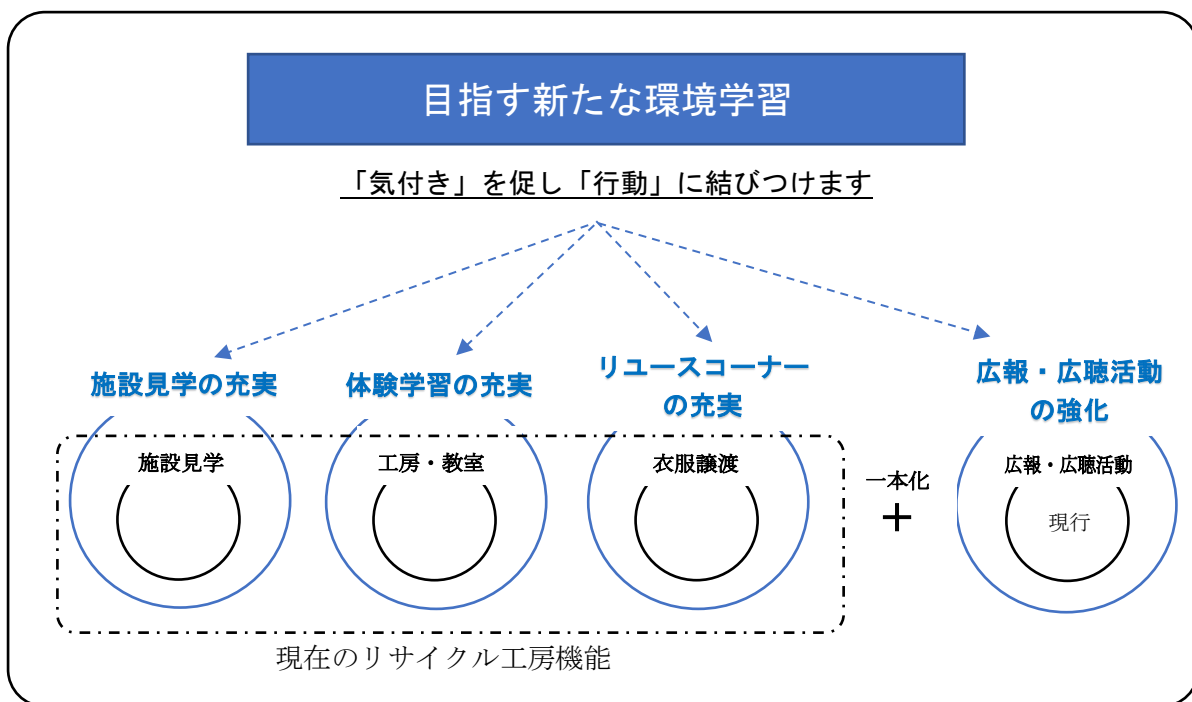
※1 環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律…持続可能な社会の構築のため、国民・NPO・事業者などが協働して環境保全への理解と取組の意欲の増進、環境教育の推進や環境保全に関する人材認定等事業の登録、体験学習の機会、情報の提供など具体的な施策を定めている。

※2 ESD (Education for Sustainable Development) …持続可能な開発のための教育。一人ひとりが世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のことを言う。各国の政府や国連が主体となり取り組んでいるが、日本では文科省がユネスコスクールを中心にESD推進を図っている。

3 今後の取組目標

今後、環境啓発活動を展開するにあたっては、より多くの人に環境問題に関心を持っていただけるよう、ごみ問題のみならず、組合が担う廃棄物処理とも密接に関係する地球温暖化対策なども含め、様々な環境問題について、「環境学習」という視点で新たな啓発活動に取り組みます。また、構成市町施策との連携強化や近隣施設・大学・住民との連携、協働関係の構築に努め、身近なところから楽しく取り組める場や機会の充実を図ります。

具体的には、新庁舎とクリーンパーク折居を一体的な「環境学習」の拠点とし、「施設見学」を起点に、これまで実施してきた「体験学習」、「リユースコーナー」の充実、更には、折居エリアへの移転を機とした組織内の啓発機能の一本化により「広報・広聴活動」の強化を図り、住民の環境に対する意識を高め、一人ひとりの行動を促す取組を実践していきます。



施設見学の充実	クリーンパーク折居への見学動線の確保、展示内容の充実、ごみ分別体験、見学者の属性に応じた学習メニューの提供等
体験学習の充実	施設見学と連携した体験メニューの導入、工房内容の見直し、近隣施設と連携した住民参加型イベントの開催等
リユースコーナーの充実	衣服以外の品目への拡充等、幅広い世代が利用できる取組の実施
広報・広聴活動の強化	普及啓発のための積極的な情報発信、広聴活動（住民の意見・要望などを聴く活動）の強化

4 対策案（目標達成のための取組）

環境学習は、環境に関する「知識」を身に付けるにとどまらず、「気付き」を促し「行動」に結びつけることが必要です。そのため、組合が実施する環境学習は、「目指す新たな環境学習」に示す取組目標に従って進めていくこととします。

また、環境問題に触れる機会を増やし、興味を持つ人を増やすため、建物位置が管内区域の中心で住民の利便性の高い「折居エリア」となる利点を最大限生かすとともに、隣接する山城総合運動公園の来園者（年間来園者数：約 140 万人）にも気楽に立ち寄ってもらえる取組についても検討を進めます。

（1）施設見学の充実

ア 「ごみ焼却の処理フロー」に沿った見学ルートの検討

新施設では、映像や展示により、管内のごみ処理の状況等を紹介し、環境学習への意欲を高めます。また、隣接するクリーンパーク折居の施設見学に進めるよう渡り廊下（連絡通路）で結ばれた見学動線を検討します。

更に、クリーンパーク折居の見学ルートを、山城総合運動公園や宇治市の景観を一望することができる場としてPRし、より多くの人に来訪いただくためのきっかけとします。例えば、宇治市植物公園から山城総合運動公園を経てクリーンパーク折居に至るウォーキングルートで自然観察から環境学習まで楽しめるルートなどを研究します。

イ 展示内容の充実

処理現場の見学、パネルや映像、機器を使用した分かりやすい説明による「知識」の習得に加えて、実機・実物の解説を通して「気づき」を促し、例えば、ごみの分別体験など住民の実践的な「行動」につながる機会の場を提供します。

ウ 施設見学

大きなごみピットやごみピットの中で動く大きなクレーン、手選別作業を実際に見ることでごみ処理の規模を実感し、処理にかかる労力について理解を深めます。

小学校の施設見学では、家庭に帰って、ごみを減らすこと、分別ルールを守る必要性を伝えてもらい、ごみ減量や適正な分別の行動につなげてもらうための学びの場とするとともに、もう一度家族で一緒に来訪してもらえるような取組を検討します。施設見学未実施の学校には、DVDの貸出、パンフレットの配布、出前講座等による対応を検討します。また、小学校の施設見学は、見学時間に限りがあり、詰込み学習となる傾向にあるため、全日の施設見学を学校に提案することなど見学手法の見直しを図るとともに、見学のポイントが印象付けられるよう工夫を行います。

一般の施設見学では、休日の見学受入れやあらゆる世代が学べるよう、事業者、大学生などの見学者の属性に応じた学習メニューを検討します。

(2) 体験学習の充実

ア 体験学習

実体験をはじめ、多面的な視点でごみ問題に触れてもらえるよう様々な経験の機会を提供することにより、更なる「気付き」を引き出し、具体的な「行動」に結びつけます。

また、施設見学との連携による実感を伴う学びも取り入れるとともに、住民の方々からの要望を受け入れた体験学習なども実施します。

なお、現在実施しているリサイクル体験学習は、利用者（参加者）の固定化、活動のマンネリ化が見られることから、利用者（参加者）が減少している工房は、一部廃止も含め見直しを行います。

※資料「現工房の内容、個別的な課題と分析及び対策案」参照

イ 住民参加型イベント・催し物の充実

身近なところから楽しく取り組める場や機会の充実を図ります。定期的実施する体験学習、組合主催の環境まつりに加え、例えば、隣接する山城総合運動公園等の近隣施設と連携した住民参加型イベントの開催、フリーマーケット、企画展示、有識者講演会の開催等を検討します。

また、多目的スペースを住民に開放し、地域や住民団体等の活動を支援します。

(3) リユースコーナーの充実

現在の衣服譲渡コーナーを、例えば、幅広い世代の方が利用してもらえるよう衣服以外の品目も取り扱うリユースショップに拡充し、ものを大切に作る心を育み、自らのライフスタイルも見直すきっかけになるよう働きかける場とします。

取り扱う品目については、各種リユースショップでの流通やインターネットオークション、フリマアプリなどインターネットを通じた流通等、リユースの流通・手段が多様化している現状を踏まえ、まずは、衣服譲渡コーナーの充実に取り組みます。例えば、学生服のリユースなど構成市町と連携し、特徴的なものを検討します。

また、衣服以外の品目を取り扱う場合には、回収方法の検討を進めます。

(4) 広報・広聴活動の強化

リサイクル工房機能の折居エリアへの移転を機に、本庁の広報機能とエコ・ポート長谷山の啓発機能の一本化を図り、組合事業のPR強化、普及啓発のための効果的・魅力的な情報発信により、「行動」を後押しします。

さらに、各種体験学習、環境まつり等、住民参加イベントを活用し、これまで実質的に機能していなかった広聴活動（住民の意見・要望などを聴く活動）を強化し、住民ニーズに即した施策展開へとつなげます。

5 環境学習施設の運営体制

環境学習施設の運営にあたっては、次のとおり検討していきます。

（1）新施設の運営体制

現在の各種工房・教室の運営は、エコ・ポート長谷山住民スタッフの会「ECOフレンズ」の協力を得ながら運営しており、「ECOフレンズ」のこれまでの活動経験を最大限活かすことを念頭に、企画やスタッフの充実を含め、新たな環境学習機能を発揮するに見合った運営方式を研究していきます。

（2）現リサイクル工房機能（エコ・ポート長谷山）の活用

リサイクル工房機能が移転後もエコ・ポート長谷山においては容器包装廃棄物4品目（缶類、びん類、紙パック及びペットボトル）の資源化処理を行っていくこととなります。

また、エコ・ポート長谷山は、引き続き施設見学の受入を行うことから、現工房スペースも出前教室の開催や展示による啓発機能の場とする等の検討を行います。

6 環境学習施設の整備方針

環境学習施設の整備にあたっては、次の点に着目した整備を検討していきます。

① 来訪者増加

- ・明るく親しみを感じる建物意匠
- ・子育て世代にやさしい設備の設置
- ・身体障がい者、高齢者、幼児が安全に利用できる動線のバリアフリー化
- ・リユースショップの拡充
- ・環境まつりをはじめ環境イベントやフリーマーケット等の開催に配慮した屋外広場の活用
- ・隣接する山城総合運動公園の来訪者（年間 140 万人）への働きかけ、クリーンパーク折居の世界初の膜構造煙突素材の活用の検討

② 環境学習

- ・展示コーナーの設置場所や展示内容
- ・多様な使用方法にも対応できる多目的スペース
- ・各種工房・教室の開催にも柔軟に対応できる工房作業室
- ・リサイクル工房とごみ焼却施設とを連絡する渡り廊下の有効活用

おわりに

リサイクル工房機能のあり方については、令和2年7月から14回にわたり、組合職員で構成する「リサイクル工房検討会議」を開催し、検討を行ってきました。その間、学識経験者の助言、先進地の取組から、今後の環境学習施設の方向性、あり方についての知見を得る中で、「組合における環境啓発活動の今後の方向性」としてまとめるに至りました。

今後、目標達成のために示した様々な取組については、引き続き調査検討を行うとともに、本検討会議等において定期的に検証し、フォローアップを行っていきます。

また、環境学習スペースの具体的な整備内容については、更に議論を深め、次年度に予定されている設計業務のなかで、「組合における環境啓発活動の今後の方向性」の考え方が反映できるよう整備を検討していくこととします。

現工房の内容、個別的な課題と分析及び対策案（施設見学を除く）

① 現工房の内容

項 目		内 容	開催日	
通常 工房	ガラス工房	電気炉細工	原則事前予約制 土・日曜日、祝日、 第二金曜日に開催 (教室開催日を除く)	
		バーナー細工		
		砂吹き細工		
	衣服工房	小物体験		不要になった和布・洋服等から帽子や スカーフなどを作る。
	自転車工房	組立		再生自転車の組立
		修理		持込自転車の修理
教室	ガラス教室	それぞれ事前に通常工房以外の作品 を企画し、参加者を募集し開催する。	原則事前予約制 それぞれ月 2 回、 土・日・祝日、第二 金曜日に開催	
	衣服教室			
	リサイクル教室	環境まつり、親子企画、他団体の環境 イベントで、自転車工房のボラン ティアスタッフが実施しているもの。廃材 を使った木工細工等を実施。	随時	
	着物リフォーム教室	不要になった着物地から好みの鞆や 洋服を作る。	事前予約制 平日(月・火)に年間 44 日開催	
出前 講座	ゆめりあうじ他	ガラス教室	組合主催の教室。それぞれ事前に作品 を企画し、参加者を募集し開催する。	事前予約制 年 5、6 回開催
		衣服教室		
	小学校・構成市町・ 自治会等	ガラス教室	各団体から依頼された場合にボラン ティアスタッフを派遣する。	随時
		衣服教室		
リサイクル教室				
衣服譲渡		家庭で不要となった衣服を引き取り、 リユース品として住民に有償で譲渡 する。	休館日(水・木曜日) 以外	
団体体験		小学生見学時などに、団体で工房を体 験してもらおう。	随時	

② 個別的な課題と分析

項 目		課 題	分 析
通常 工房	ガラス、衣服工房	工房と教室の違いが分かりにくく、工房の認知度が低い状態となっている。また、教室に比べ工房の利用者が少ない傾向にある。	教室の案内は、広報紙やホームページ、工房だよりに作品の写真や内容等を掲載しているが、工房の案内はホームページのみとなっている。
	自転車 工房	組立・修理	<p>①再利用できる自転車の回収ルート の確保が困難となっている。 (開設当時のような構成市町の 収集段階から仕入れるルートが ない。)</p> <p>②持込や回収により自転車を確保 しているが、状態の良い自転 車が多い。</p> <p>③現状、必要な修理部品が不足傾 向にある。</p> <p>④再利用できる(組立体験に回せ る)状態に仕上げるまでに日数 がかかっている。</p> <p>⑤稼働日数に対して、利用者数が 少ない。</p>
教室	ガラス、衣服教室	参加者が固定化している。	<ul style="list-style-type: none"> ・常連の方の参加が多い傾向にある。 ・電話による先着順での受付としているため、受付開始の時間帯に電話できない方が居られると考えられる。この受付の手法も参加者の固定化に繋がっていると考えられる。
	リサイクル教室	小学校低学年以下向けの作品(内容)が多く、大人向けの作品がない。	夏休みの親子企画や、環境まつり等のイベント開催時の子供向けの内容となっている。

項目		課題	分析
出前講座	ガラス、衣服教室（ゆめりあうじ他、小学校・構成市町・自治会等）	<p>①リピーターからの依頼が多くなっている。</p> <p>②他団体の環境イベントに出展する場合は、作品作りがメインとなる傾向にあり、組合事業のPRは不十分な状況となっている。</p> <p>③ガラス教室の場合、作成できる作品に限りがある。</p>	<p>①出前講座は、認知度が低く、また広く周知できていない。</p> <p>②不特定の住民が、自由に参加する形式であり、作品作りにしか時間が取れない場合が多く、本庁の広報機能と工房活動との密な連携を行う必要がある。</p> <p>③電気炉、砂吹き、バーナーが持ち運びできないため、絵付けとスタンドグラス等の3、4種類しか体験できない。</p>
衣服譲渡		<p>①利用者が少なく、譲渡数も減少傾向にある。</p> <p>②ここ数年、着物の在庫が増加している。</p> <p>③持込・回収の受付基準を設けているが、譲渡できない衣類もある。</p> <p>④3Rのうち、「リユース」の取組は、衣服譲渡のみである。</p>	<p>①古着を扱う市場が拡大していることにより、若者向けや男性用のものが少ない傾向にある。また、サイズにも偏りがある。</p> <p>②各種リユースショップでのニーズが少なく、引受先がないものと考えられる。</p> <p>③基準を満たしていても、時代にそぐわない等、リユースの価値のないものがある。</p> <p>④衣服譲渡コーナーをリユースショップに拡充する等、検討の余地がある。</p>
団体体験		一般向けの団体体験の申し込みがほとんどない。	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便の問題がある。 ・団体体験は、認知度が低く、また広くが周知できていない。

③ 対策案

項 目		対 策
工房・教室	ガラス工房・教室	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス工房と衣服工房は、各教室と一本化する。一本化することで、提供する作品の充実化を図り、認知度の向上に繋げる。 また、うち1回は住民の要望を受け入れた作品での開催を検討する。
	衣服工房・教室	<ul style="list-style-type: none"> ・申し込み方法については、ホームページ（フェイスブックからのリンク等）からのWeb申し込みや従来の申し込みに抽選方式を追加する等、より多くの方に来ていただけるように検討する。
	リサイクル教室	<ul style="list-style-type: none"> ・環境まつり、親子企画、他団体の環境イベント等で実施するリサイクル教室は好評であり、大人向けの作品も検討する。また、開催方法としては、リサイクル教室として自転車工房から独立させる。
	着物リフォーム教室	<ul style="list-style-type: none"> ・着物リフォーム教室については、参加者がうまく回転しており、着物のリユースにも繋がることから、継続して開催を行う。 ・幅広い世代に対して興味を持ってもらえるような作品づくりを、検討する。
	環境学習教室（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ・作品作りだけでなく、ごみ処理についての説明や3Rの啓発などを積極的に取り入れ、環境について考えてもらう場を設け、体験学習とセットでPRを行える活動を検討する。
	自転車工房	<p>構成市町に同様の事業があり、重複を避ける必要があることから廃止を含めて検討する。</p>
出前講座	ガラス、衣服教室	<ul style="list-style-type: none"> ・本庁の広報機能とエコ・ポート長谷山の啓発機能の一体化を図り、各出前講座の認知度が向上するような情報発信手法を検討する。
	環境学習教室（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス教室については、持ち運び可能な機器を購入し、絵付けやステンドグラス等以外の幅広い作品づくりができる体験学習を検討する。 ・構成市町、近隣施設等と連携し、新たな環境学習の提供を行う。
衣服譲渡		<ul style="list-style-type: none"> ・衣服譲渡コーナーの充実に取り組む。例えば、学生服等、特化したものを取り扱うなど特徴のある取組を検討する。 ・新たな回収方法の検討を進める。
団体体験		<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座による団体体験、施設見学と併せて体験学習ができるよう方法を検討する。 ・団体体験の認知度が向上するような情報発信手法を検討する。

リサイクル工房検討会議名簿

●検討会議会員

	氏 名	所 属
会 長	川島 修啓	施設部理事（エコ・ポート長谷山所長）
副会長	別所 尚紀	議会事務局長
会 員	杉崎 雅俊	事業部理事
会 員	長野 満佐志	クリーンパーク折居所長
会 員	園田 真里子	エコ・ポート長谷山所長補佐
会 員	西垣 若菜	エコ・ポート長谷山技師
会 員	田邊 知世	総務課主事
会 員	石井 章一	クリーンパーク折居(会計年度任用職員)

●アドバイザー

花嶋 温子 大阪産業大学 デザイン工学部 環境理工学科 准教授
 (主な委員等)

- ・一般社団法人 廃棄物資源循環学会 環境学習施設研究部会 副部会長
- ・環境省 3R推進マイスター

その他、多くの地方公共団体の審議会や委員会の委員等を歴任

リサイクル工房検討会議協議内容

回数	日程	検討内容
1	令和2年7月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ・ポート長谷山工房事業の現状と課題について ・広報広聴活動の現状と課題について ・今後の進め方について
2	令和2年7月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル工房における取組指針の検討 ・エコ・ポート長谷山に係る「各工房及び教室、衣服譲渡コーナー」についての検討
3	令和2年8月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・本庁管理棟移転後の跡地利用及び新リサイクル工房活用に関する構成市町アンケート調査について ・エコ・ポート長谷山工房機能の将来構想（案）について
研修	令和2年8月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「環境学習施設の全国的傾向について」 講師：大阪産業大学 デザイン工学部 准教授 花嶋温子氏
4	令和2年8月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習、リサイクル工房機能のあり方について ・その他
視察	令和2年9月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市南部クリーンセンター「さすてな京都」視察
視察	令和2年9月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・豊中市伊丹市クリーンランド視察
5	令和2年9月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・当面のスケジュールについて ・環境学習、リサイクル工房機能のあり方について
6	令和2年10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習、リサイクル工房機能のあり方について ・本庁管理棟移転後の跡地利用及び新リサイクル工房活用に関する構成市町アンケート調査結果について
7	令和2年10月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習、リサイクル工房機能のあり方について
8	令和2年11月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習、リサイクル工房機能のあり方について ・その他
9	令和2年11月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習、リサイクル工房機能のあり方について
10	令和2年12月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習、リサイクル工房機能のあり方について（アドバイザー出席） ・今後のスケジュールについて
11	令和2年12月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル工房機能のあり方検討に関する報告書（案）について
12	令和3年1月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル工房機能のあり方検討に関する報告書（案）について ・今後のスケジュールについて
13	令和3年1月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル工房機能のあり方検討に関する報告書（案）について ・今後のスケジュールについて
14	令和3年1月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル工房機能のあり方検討に関する報告書（案）について